

キリストの光のキリスト

主の洗礼

1月13日

(マタイ3:13—17)

沈められる洗礼

った。自分の無能をさらけ出すようだが、素直にこの疑問を呈したい。

今、行われている洗礼の多くは額に少量の水を注ぐことによつて行われる。水の量は少しだが、その「しるし」によつてすべての罪がゆるされ、清められ

には、水の中に「身を沈める」という意味がある。イエスにとつて水の中に沈められることは「正しいこと」であつた。沈められて水の中から上がったその時、天が開いた。そして神の霊が彼に降(くだ)つた。そして「これはわたしの愛する子、わたしの心に適(かな)う者」という声がした。イエスが水の中に沈められることは正しいこと、神の心に適うことだったので。

の死にいたるまで。洗礼はそのように生きることを求める。洗礼を受けたことで妙な優越感を感じたりするのはなぜだろうか。優越感など感じるはずはない。それは間違っている。洗礼を受けることは謙虚になること。低みに視点を移すこと。イエスのようにへりくだること。低くされたところで神の霊に包まれて生きること。洗礼のこの意味に気づくなら、教会はもっと必然的に変わるのではないだろうか。

(山元眞一福岡教区司祭)

イエスは宣教を始めるに当たつて洗礼者ヨハネから洗礼を受けたが、その意味がわたしにはずっと分からなかった。わたしたちの模範としてイエスも洗礼を受けたと聞いてきたが、この説明では納得しがたい。洗礼は清めであると考えれば理解できない。なぜなら、イエスは清められる必要はなかったから。イエスは罪を犯さなかったから。イエスは洗礼を受ける必要はなかったのではないか。



とされる。これが教会の教えであり、それに異論を唱えるつもりはない。だが、イエスが受けた洗礼はどのような洗礼だったのだろうか。正直に言つて、

まだまだ疑問が残る。「洗礼」と訳されているバプテスマというギリシャ語の言葉

身を沈めること、これがイエスの示した模範だった。身を沈める。低くなる。そうするとき、神が引き上げてくださり、神の霊に包まれる。これがキリスト者、キリストのものとなつた者の生き方。

この週の福音

14日・月	マルコ	1・14—20
15日・火	マルコ	1・21—28
16日・水	マルコ	1・29—39
17日・木	マルコ	1・40—45
18日・金	マルコ	2・1—12
19日・土	マルコ	2・13—17

ために洗礼を受ける必要もなかつた。そしてやキリスト教に入信する秘跡である。あえて儀式と言つてもいいかもしれない。イエスには清めは必要ではなかったし、ましてやキリスト教に入る

ために洗礼を受ける必要もなかつた。そしてやキリスト教に入信する秘跡である。あえて儀式と言つてもいいかもしれない。イエスには清めは必要ではなかったし、ましてやキリスト教に入る